

トウダイグサ科トウダイグサ属

# トウダイグサ (燈台草)

*Euphorbia helioscopia* L.

## 自生環境

道ばた、畑地、野原 など

## 原産地

日本在来

## 生育を脅かす要因



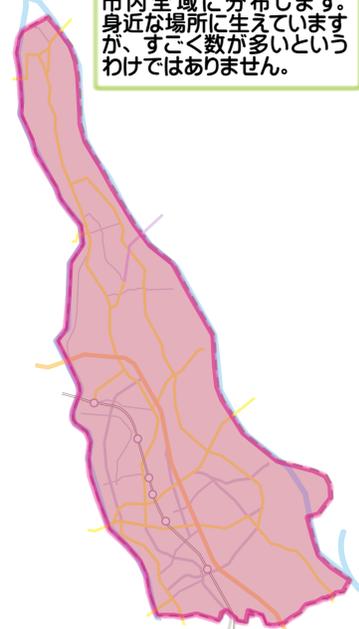
現時点では普通種ですが、道ばたや畑地など、人間活動の影響を受けやすい場所に生える草です。目の敵にしすぎず、地域の野の花としてやさしく見守りたいところです。

## 特徴

- ☆ 道ばたや畑地など、人里周辺の日当たりの良い場所に生える越年草です。茎は途中で枝分かれしないままのびて、高さ 30cm ほどになります。花期が近づくと、茎の先端が放射状に枝分かれして、まるで平皿のように広がります。この草姿が燈台（昔の照明器具）を連想させるため、燈台草とつけられました。
- ☆ 花は小さくて地味ですが、その周りの苞葉（葉が変化した部分）が鮮やかな黄緑色になるため、晴れた日はまばゆく輝いて目立ちます。果実は 3 個の球をつなげたような姿をしています。これを鈴に見立てたスズフリバナという別名もあります。
- ☆ 茎や葉をちぎると白い乳汁が出てきます。この乳汁は有毒で、さわるとかぶれ、誤食すると中毒を起こすおそれがあります。

## 市内の分布状況

市内全域に分布します。身近な場所に生えています。が、すごく数が多いというわけではありません。



## 花びらみたいな蜜腺

トウダイグサの花は、「花びら 4 枚の花 1 個」に見えますが、じつは特殊で複雑な構造になっています。1 個の雌花と数個の雄花が束になって、壺のように変形した「総苞」の中に収まり、1 つの花のようになっています。そして、4 枚の花びらのような部分は、総苞の先についた蜜腺です。このような花のあつまりを杯状花序（はいじょうかしよ）または壺状花序（こじょうかしよ）と言います。



花のまわりの苞葉（葉が変化した部分）が黄緑色に色づく

茎の上部は皿のように平たく広がる

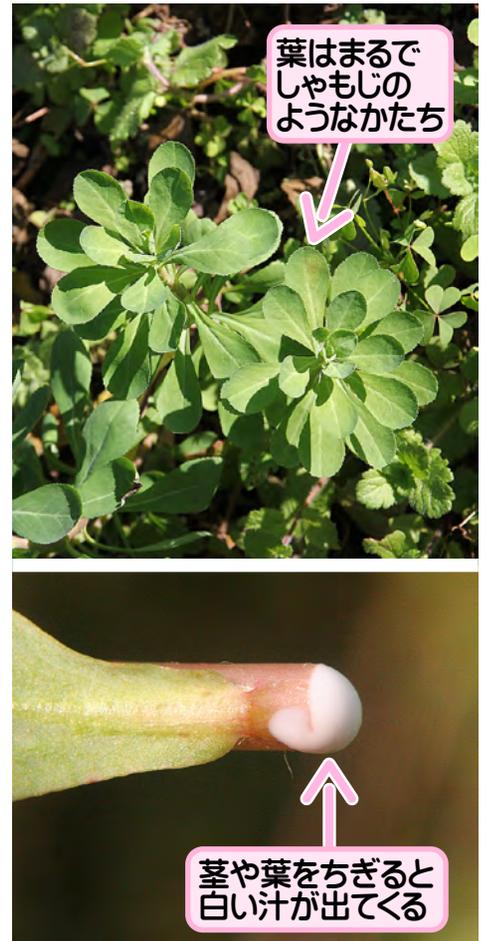


花びらのように見える部分は腺体（蜜を出す部分）

### 杯状花序

1 個の雌花と数個の雄花が集まって 1 つの花のようになったもの

果実は 3 つの球がつついたようなかたち



葉はまるでじゃもじのようなかたち

茎や葉をちぎると白い汁が出てくる



わびちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

